

コンパクトで持続可能な
まちづくりに向けたアンケート調査
結果報告書

平成29年3月



高松市

目 次

1. 調査の概要	1
1.1 調査の目的	1
1.2 調査の対象者	1
1.3 調査の方法	1
1.4 調査期間	1
1.5 回収結果	1
2. 回答者の属性	2
2.1 性別	2
2.2 年代	2
2.3 就業形態	2
2.3.1 就業形態	2
2.3.2 就業している分野	3
2.4 高松市での居住歴	3
2.5 居住する住宅の建て方	3
2.6 家族構成	3
2.7 自動車の利用状況	4
2.8 居住地区	5
3. 調査の結果	6
3.1 日常生活の活動に関する設問	6
3.1.1 活動・機能の立地の現状	6
3.1.2 活動・機能の頻度	7
3.1.3 活動・機能の満足度	8
3.1.4 活動・機能の重要度	9
3.1.6 活動・機能の望ましい立地	10
3.2 多核連携型コンパクト・エコシティに関する設問	11
3.2.1 人口減少、少子高齢社会において懸念される問題	11
3.2.2 多核連携型コンパクト・エコシティの進め方	12
3.2.3 多核連携型コンパクト・エコシティの推進において力を入れるべき施策	13
3.3 今後の住み替えに対する意向	14
3.3.1 今後 10 年間の住み替え意向	14
3.3.2 想定している転居先	14
3.3.3 転居理由	15
3.3.4 転居先の住居	15
3.3.5 転居できない理由	16
3.3.6 転居時に受けたたい支援	17
3.4 まちづくりについての考えやアイデア	18

1. 調査の概要

1.1 調査の目的

高松市では、人口が減少した超高齢社会においても、まちが活力を失わず、市民がいいきと暮らせるよう、福祉や環境・経済など総合的な視点から、コンパクトで持続可能なまちづくりに取り組んでいます。本調査では、こうしたコンパクトなまちづくりをさらに進めるための計画（立地適正化計画）の基礎資料として、市民の意識を把握することを目的として実施したものです。

1.2 調査の対象者

平成 28 年 1 月 1 日現在の住民基本台帳から、満 20 歳以上の高松市民 3,000 人を校区ごとに無作為抽出しました。

1.3 調査の方法

1.2 で抽出した対象者に、郵送により調査票を配布・回収しました。

1.4 調査期間

平成 28 年 2 月 11 日～2 月 25 日

1.5 回収結果

配布数	3,000 部
回収数	1,182 部
回収率	39.4%

1.6 集計結果の見方

- ・グラフ中の「N（Number of case の略）」はその質問の該当者数を表しており、回答率（%）は、そのNを基数として算出しています。
- ・複数回答の設問は、全ての比率を合計すると 100%を超えることがあります。

2. 回答者の属性

2.1 性別

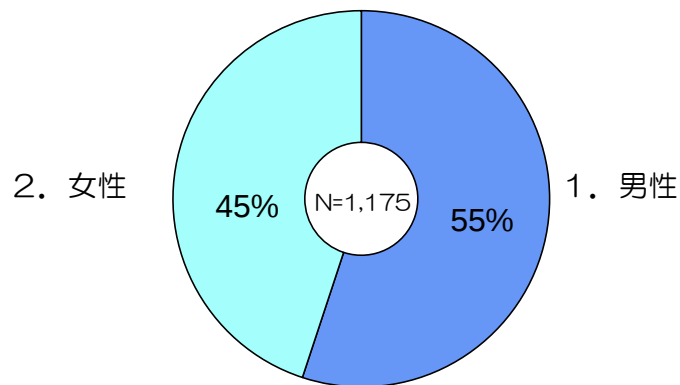


図 2-1 性別

2.2 年代

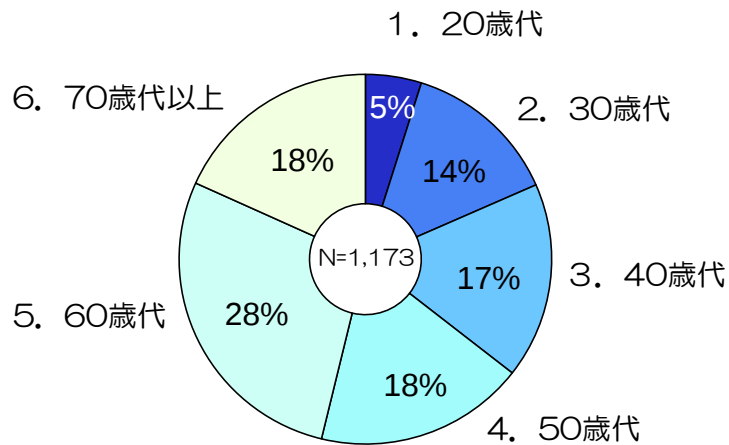


図 2-2 年代

2.3 就業形態

2.3.1 就業形態

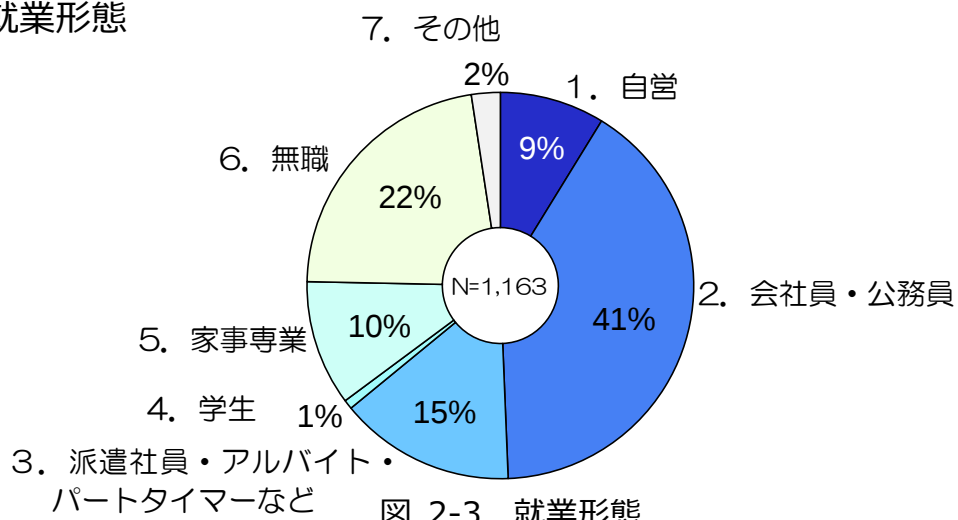


図 2-3 就業形態

2.3.2 就業している分野（上記で1～3と回答された方）

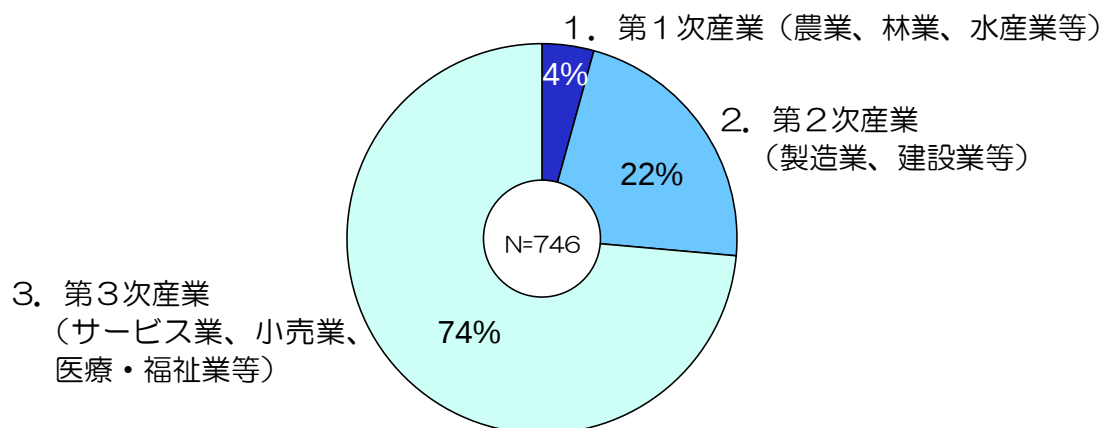


図 2-4 就業している分野

2.4 高松市での居住歴

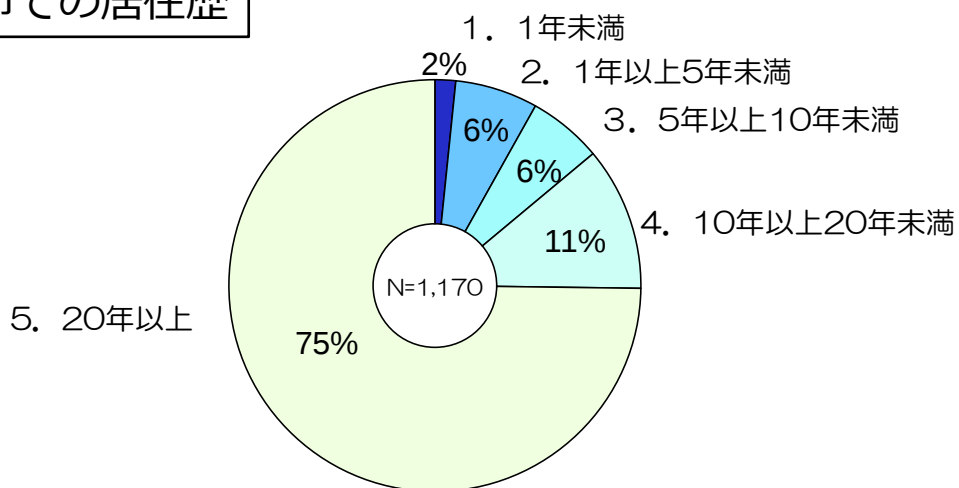


図 2-5 高松市での居住歴

2.5 居住する住宅の建て方

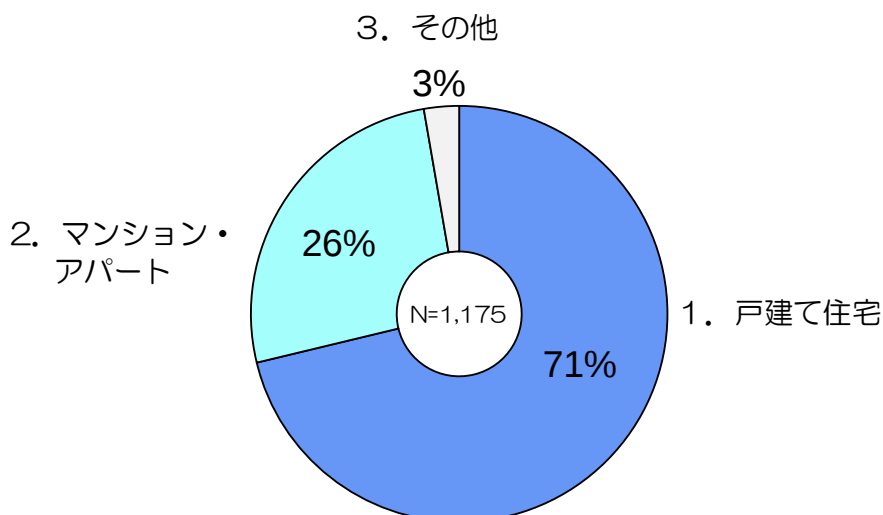


図 2-6 居住する住宅の建て方

2.6 家族構成

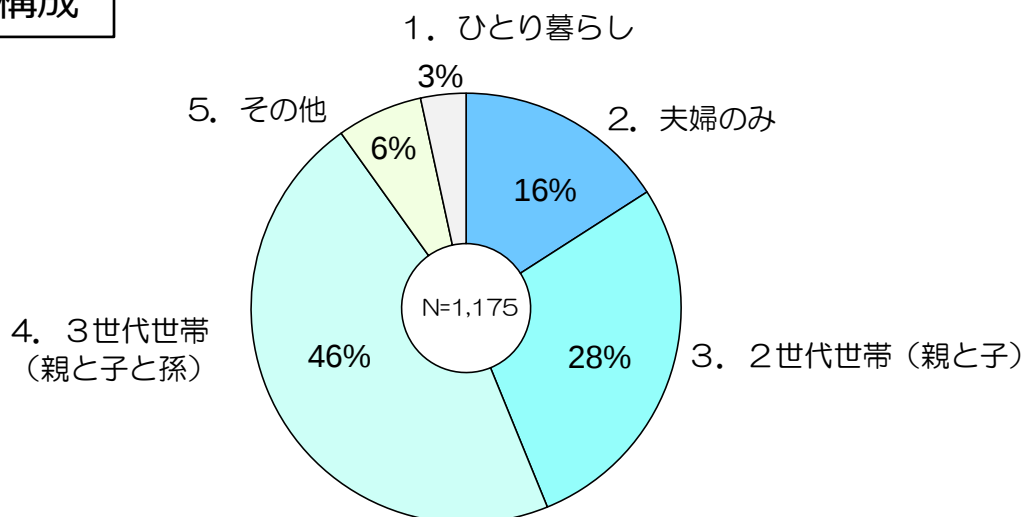


図 2-6 家族構成

2.7 自動車の利用状況

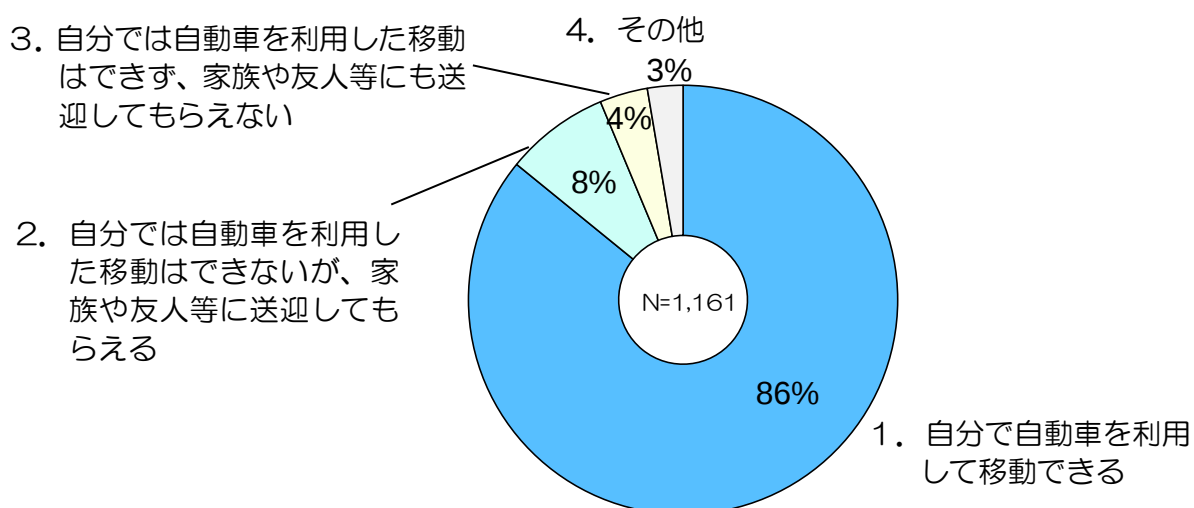


図 2-7 自動車の利用状況

2.8 居住地区

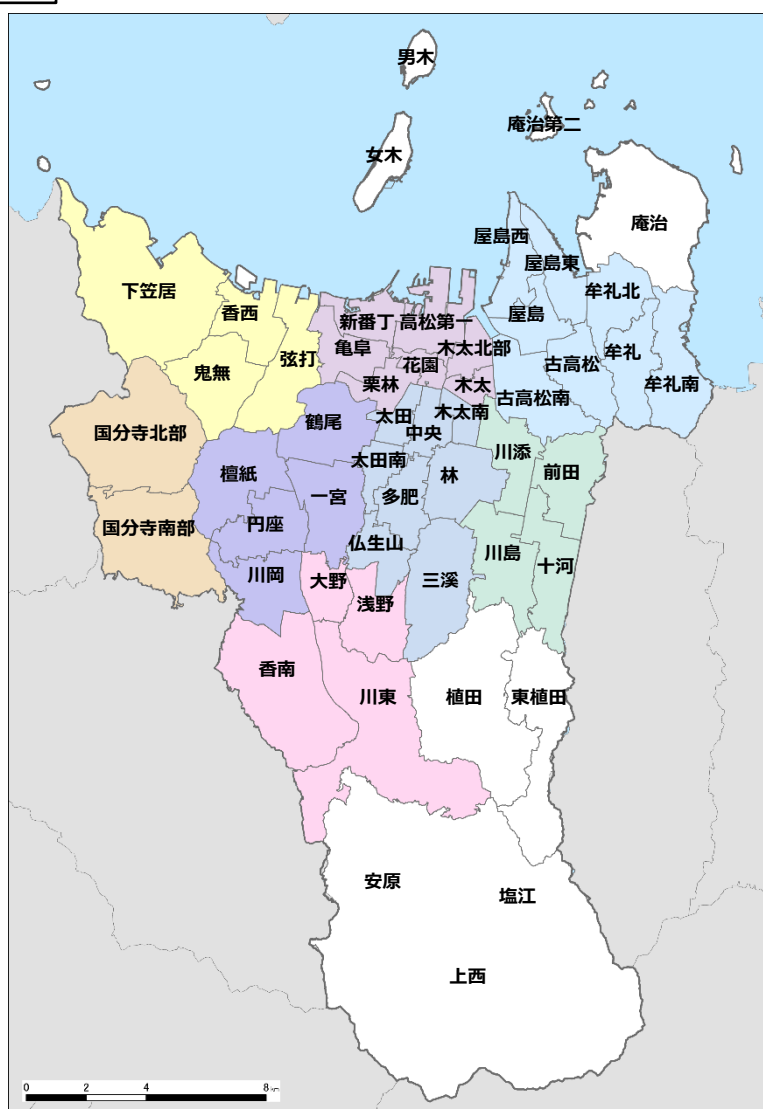


図 2-8 居住地区

表 2-1 居住地区(回答数)

		合計			合計			合計			合計
都心地域	新番丁	34	中部西地域	鶴尾	15	東部北地域	古高松	39	南部地域	大野	17
	亀阜	28		一宮	37		屋島	13		浅野	22
	栗林	51		川岡	19		古高松南	18		川東	21
	花園	18		円座	26		屋島東	15		香南	18
	高松第一	34		檀紙	25		屋島西	33		小計	78
	木太	66		小計	122		牟礼	31	その他	女木	5
	木太北部	7		太田	69		牟礼北	8		男木	5
	小計	238		林	39		牟礼南	12		植田	16
西部北地域	香西	27	中部東地域	三溪	16		小計	169		東植田	6
	弦打	24		仏生山	25	東部南地域	前田	13		上西	2
	鬼無	16		多肥	45		川添	35		塩江	14
	下笠居	20		中央	8		川島	23		安原	4
	小計	87		太田南	13		十河	20		庵治	20
西部南地域	国分寺北部	31		木太南	11		小計	91		庵治第二	0
	国分寺南部	31		小計	226					無回答	354
	小計	62								小計	426
									合計		1,145

☞ 「都心地域 (20%)」及び「中部東地域 (20%)」が最も多く、次いで「東部北地域 (15%)」、「中部西地域 (11%)」の順となっています。

3. 調査の結果

3.1 日常生活の活動に関する設問

3.1.1 活動・機能の立地の現状

問 1 - 1 現在お住まいの地域において、以下の活動が徒歩や自転車又は鉄道やバスで行える範囲にあるか、若しくは自動車がないと行えない範囲にあるかについてお答えください。

(1 番から 10 番のそれぞれについて、当てはまるものを 1 つだけ選び、番号に○)

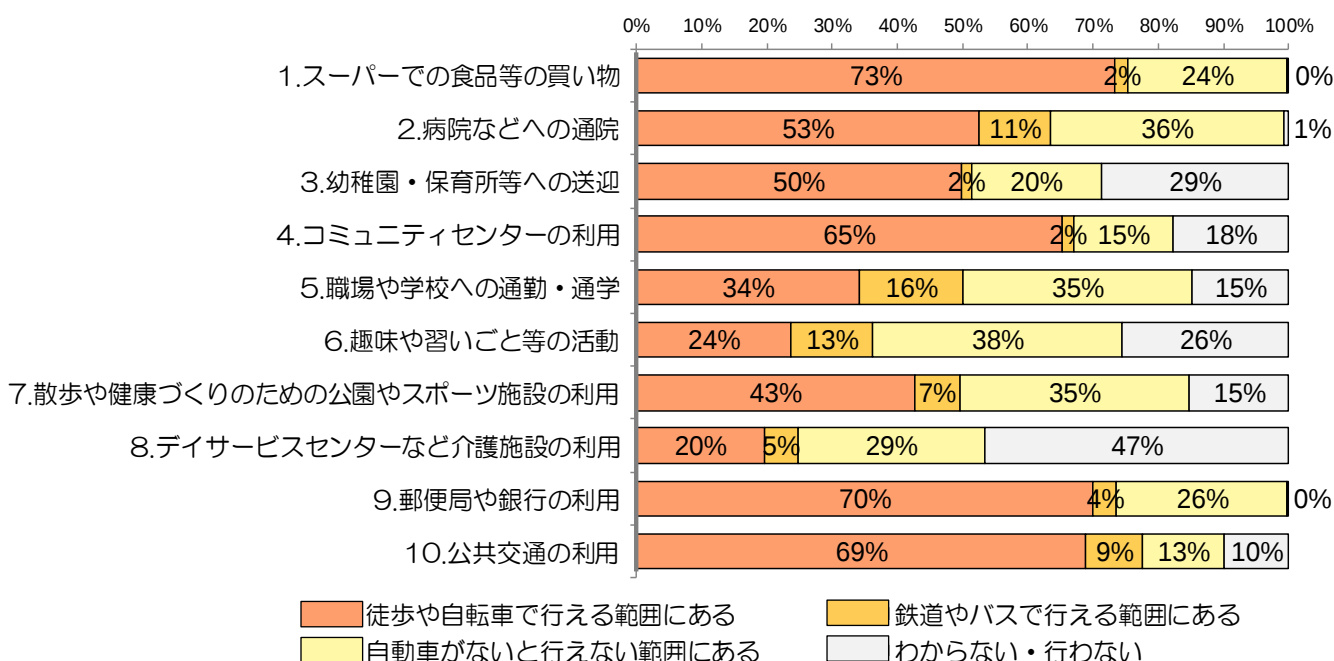


図 3-1 活動・機能の立地の現状

- ☞ スーパーでの買い物、コミュニティセンターの利用、郵便局や銀行の利用、公共交通の利用では、70%前後が「徒歩や自転車で行える範囲にある」と回答しており、徒歩圏域での利用が概ね確保されていると言えます。
- ☞ 病院などへの通院や幼稚園・保育所等への送迎が「徒歩や自転車で行える範囲にある」とする回答は半数程度である一方、それぞれの「自動車がないと行えない範囲にある」とする回答が 36%, 20%となっており、ある程度は車に依存していると言えます。趣味や習いごと、介護施設の利用については、地域によって立地にばらつきがあると考えられることから 20%程度と低くなっています。

3.1.2 活動・機能の頻度

問 1 - 2 現在お住まいの地域における、以下の活動の頻度についてお答えください。

(1 番から 10 番のそれぞれについて、当てはまるものを 1 つだけ選び、番号に○)

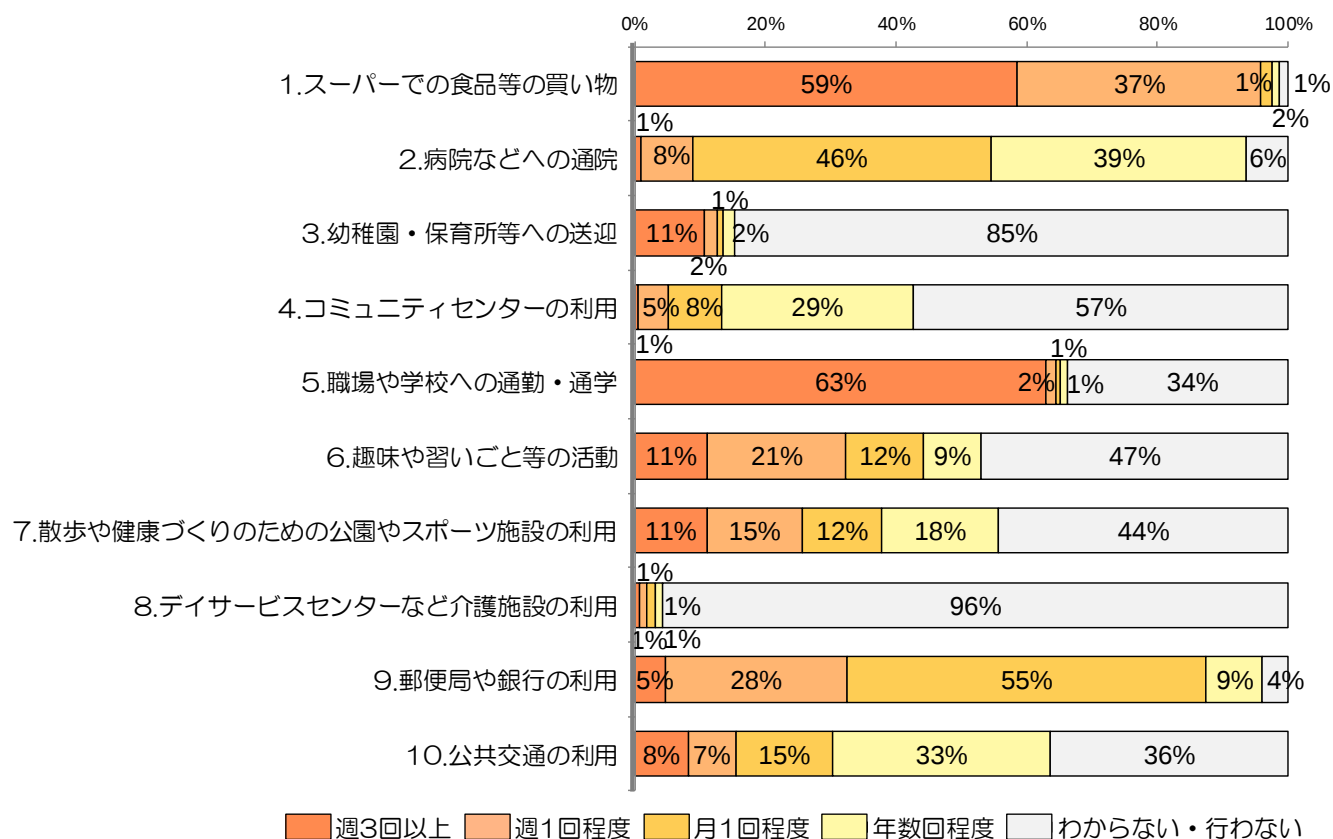


図 3-2 活動・機能の頻度

☞ 買物、通勤・通学で「週 3 回以上」とする回答が 60%前後と高くなっています。一方、通院、公共交通の利用では「年数回程度」の割合が 30%程度を超えており、日常生活の中での利用度合いは低いものとなっています。

3.1.3 活動・機能の満足度

問1－3 現在お住まいの地域における、以下の活動の満足度についてお答えください。

(1 番から 10 番のそれぞれについて、当てはまるものを 1 つだけ選び、番号に○)

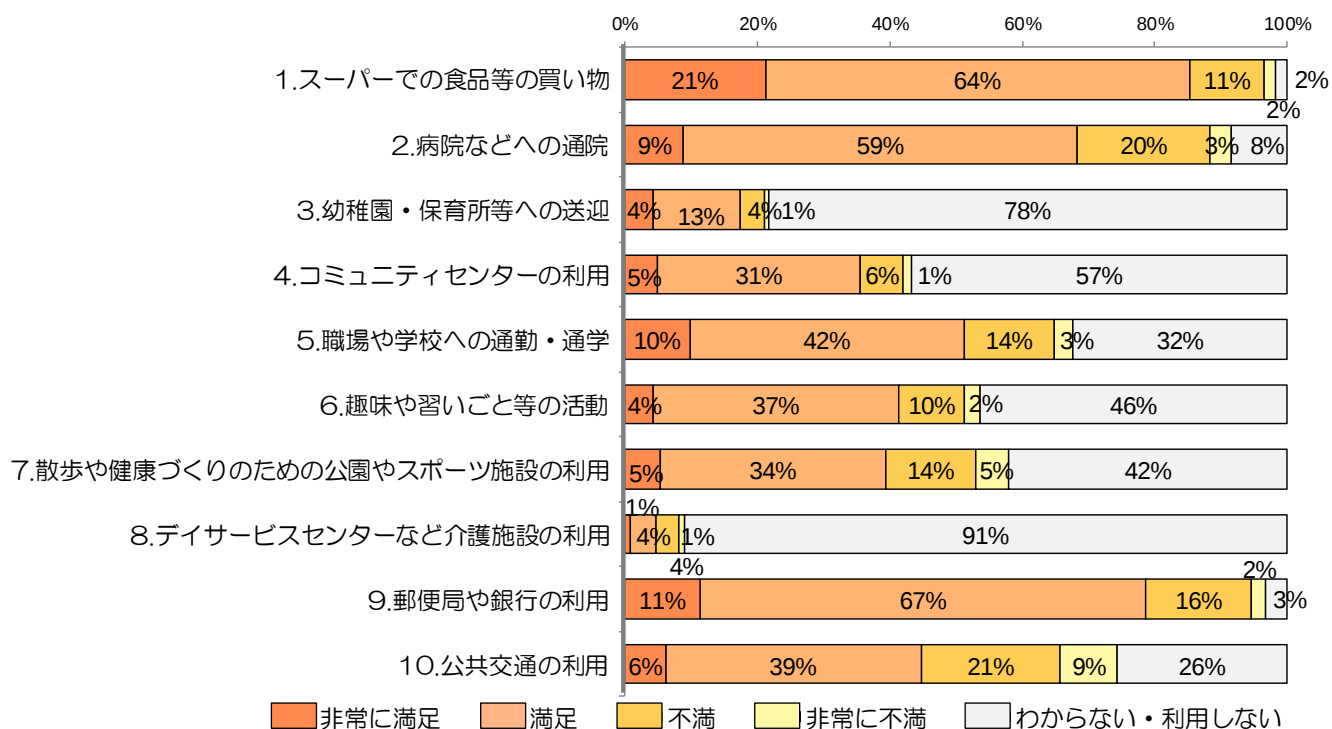


図 3-3 活動・機能の満足度

- ☞ 「非常に満足」と「満足」の割合の合計が、買い物（85%）、郵便局や銀行の利用（78%）、通院（68%）において高くなっています。
- ☞ また、公共交通の利用では「非常に不満」と「不満」の合計が 30%と、他の項目と比較し不満傾向が強く見られます。

3.1.4 活動・機能の重要度

あなたの日常生活における活動の重要度についておうかがいします。

問 2 現在お住まいの地域における、以下の活動の重要度についてお答えください。

(1 番から 10 番のそれぞれについて、当てはまるものを 1 つだけ選び、番号に○)

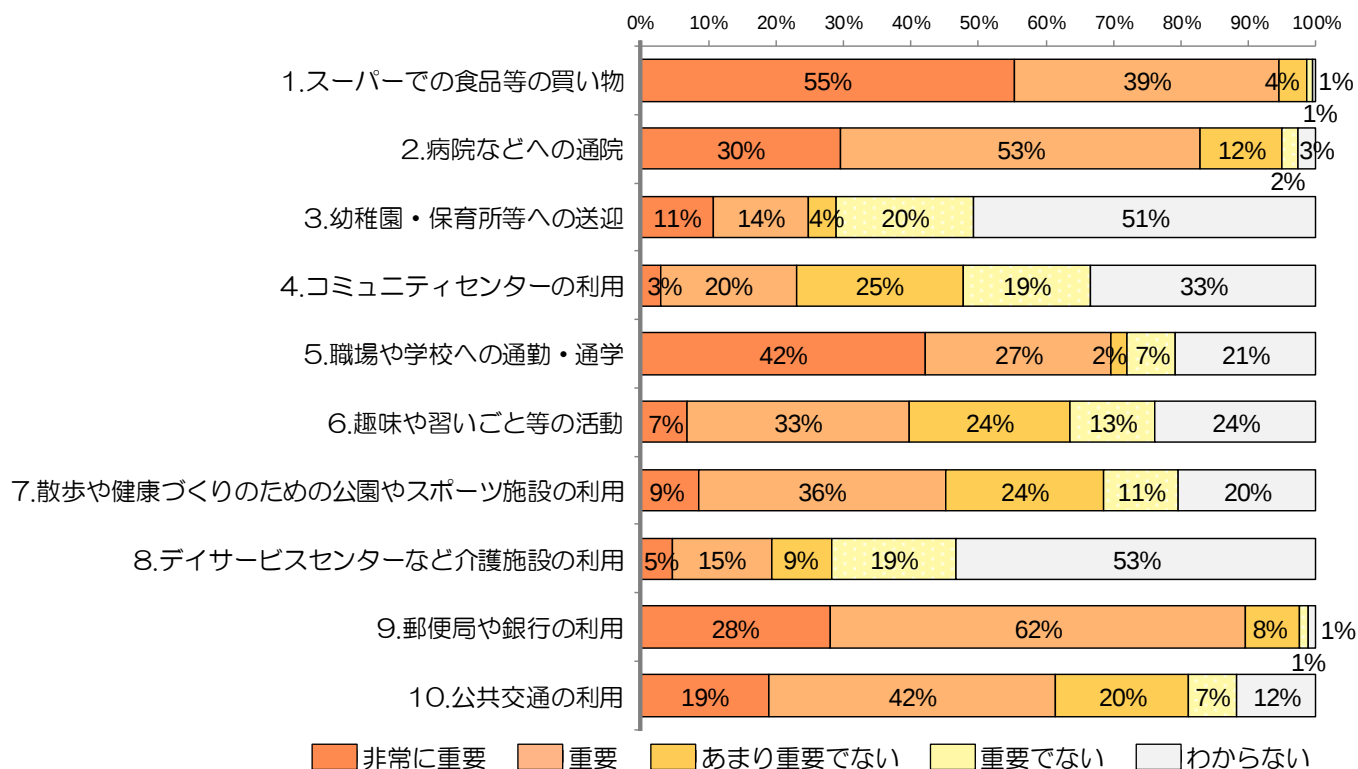


図 3-4 活動・機能の重要度

- ☞ 「非常に重要」と「重要」の割合の合計が、買い物（94%）、郵便局や銀行の利用（90%）、通院（83%）において、高くなっています。
- ☞ 一方、幼稚園・保育所等への送迎（25%）、介護施設の利用（20%）では他の項目と比較し、重要度がやや低くなっていますが、これは各活動の利用が年代によって限られているということが考えられます。

3.1.5 活動・機能の望ましい立地

あなたの日常生活における活動のあり方についておうかがいします。

問 3 以下の活動を行うに当たり、それぞれ、どこに立地していることが望ましいと思いますか。

(1 番から 14 番のそれぞれについて、当てはまるものを 1 つだけ選び、番号に○)

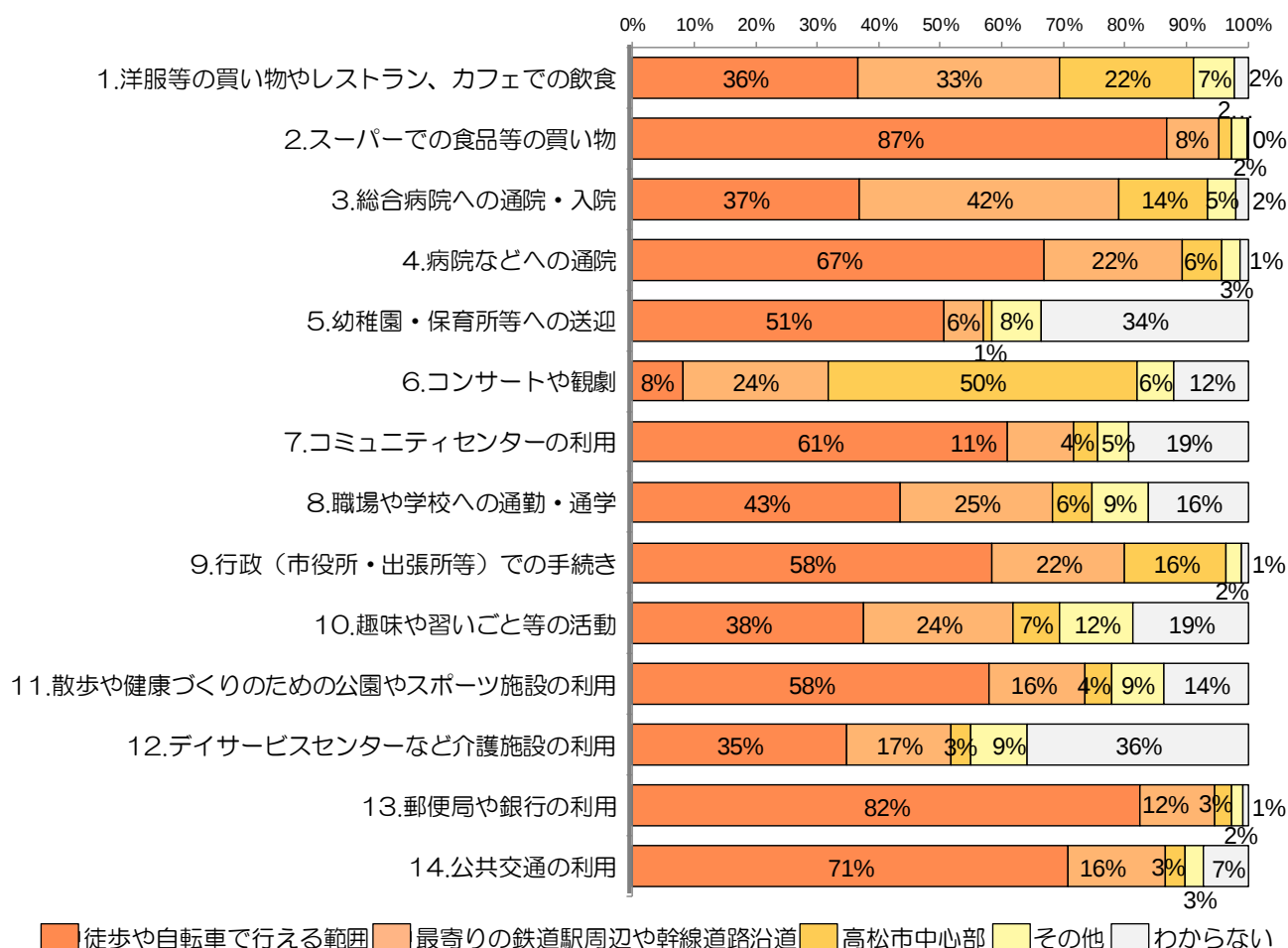


図 3-5 活動・機能の望ましい立地

☞ スーパーでの買い物、病院などへの通院、幼稚園・保育所等への送迎、コミュニティセンターの利用、行政での手続き、郵便局や銀行の利用、公共交通の利用の各項目で、「徒歩や自転車で行える範囲」の割合が 50%を超え、「徒歩や自転車で行える範囲」に立地していることが望ましいとの結果でした。同じ機能であっても、洋服等の買い物や飲食、総合病院への通院・入院といった、より高度な機能については、「最寄りの鉄道駅周辺や幹線道路沿道」への立地が望ましいという意向も見られます。

☞ 「高松市中心部」の立地が望ましいとする項目は、コンサートや観劇以外はあまり選択されていません。これらの結果から、特に日常的で身近な活動・機能については、徒歩や自転車で利用できる範囲に、それ以外の活動・機能についても最寄りの鉄道駅周辺や幹線道路沿道に立地してほしいという意向が汲み取れます。

3.2 多核連携型コンパクト・エコシティに関する設問

3.2.1 人口減少、少子高齢社会において懸念される問題

高松市では今後の大幅な人口減少、少子高齢社会への本格的な移行が予測されています。

問 4 -1 このような状況を踏まえ、あなたのお住まいの地域では、将来的にどのようなことが問題になると思いますか。(当てはまるものを3つ選び、番号に○)



図 3-6 人口減少、少子高齢社会において懸念される問題

☞ 人口減少、少子高齢社会において懸念される問題では、「高齢者が急激に増加し、高齢者介護施設の不足や介護サービスの低下が生じる（51%）」とする回答が最も多く、回答者の約半数を占めています。次いで「空家・空き地の増加による居住環境悪化（43%）」、「地域の活力低下（38%）」、「鉄道や路線バスの利用者減による便数の減少など公共交通サービスの低下（37%）」の順となっています。

3.2.2 多核連携型コンパクト・エコシティの進め方

問 4-2 高松市の目指す「多核連携型コンパクト・エコシティ」は、コンパクトなまちを目指すことにより、問 4-1 で挙げたような問題を解決しようとするものです。「多核連携型コンパクト・エコシティ」のまちづくりの進め方についてのあなたのお考えをお答えください。
(当てはまるものを1つだけ選び、番号に○)

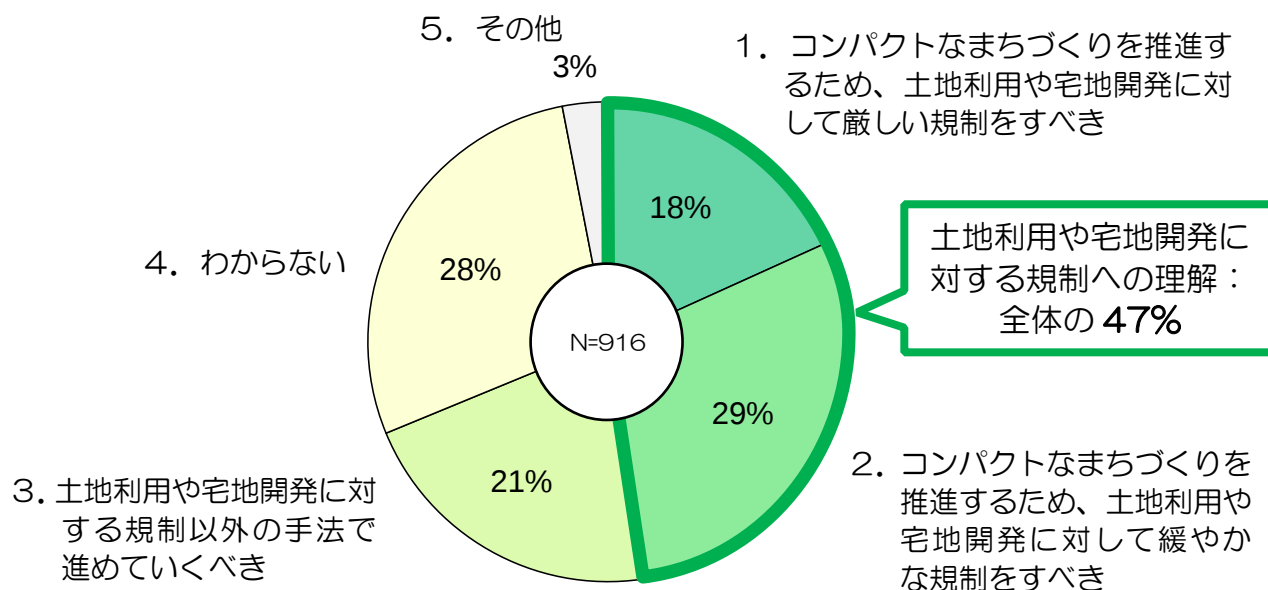


図 3-7 多核連携型コンパクト・エコシティの進め方

☞ 「コンパクトなまちづくりを推進するため、土地利用や宅地開発に対して緩やかな規制をすべき（29%）」とする回答が最も多くなっており、「コンパクトなまちづくりを推進するため、土地利用や宅地開発に対して厳しい規制をすべき（18%）」とする回答と合わせると、全体の 47% を占め、土地利用や宅地開発に対する規制については、約半数がコンパクトなまちづくりの推進のために一定の理解を示しているということが読み取れます。

3.2.3 多核連携型コンパクト・エコシティの推進において力を入れるべき施策

3.2.4 問 4-3 高松市の目指す「多核連携型コンパクト・エコシティ」の推進において、どの施策に力を入れるべきだと思いますか。（当てはまるものを3つ選び、番号に○）

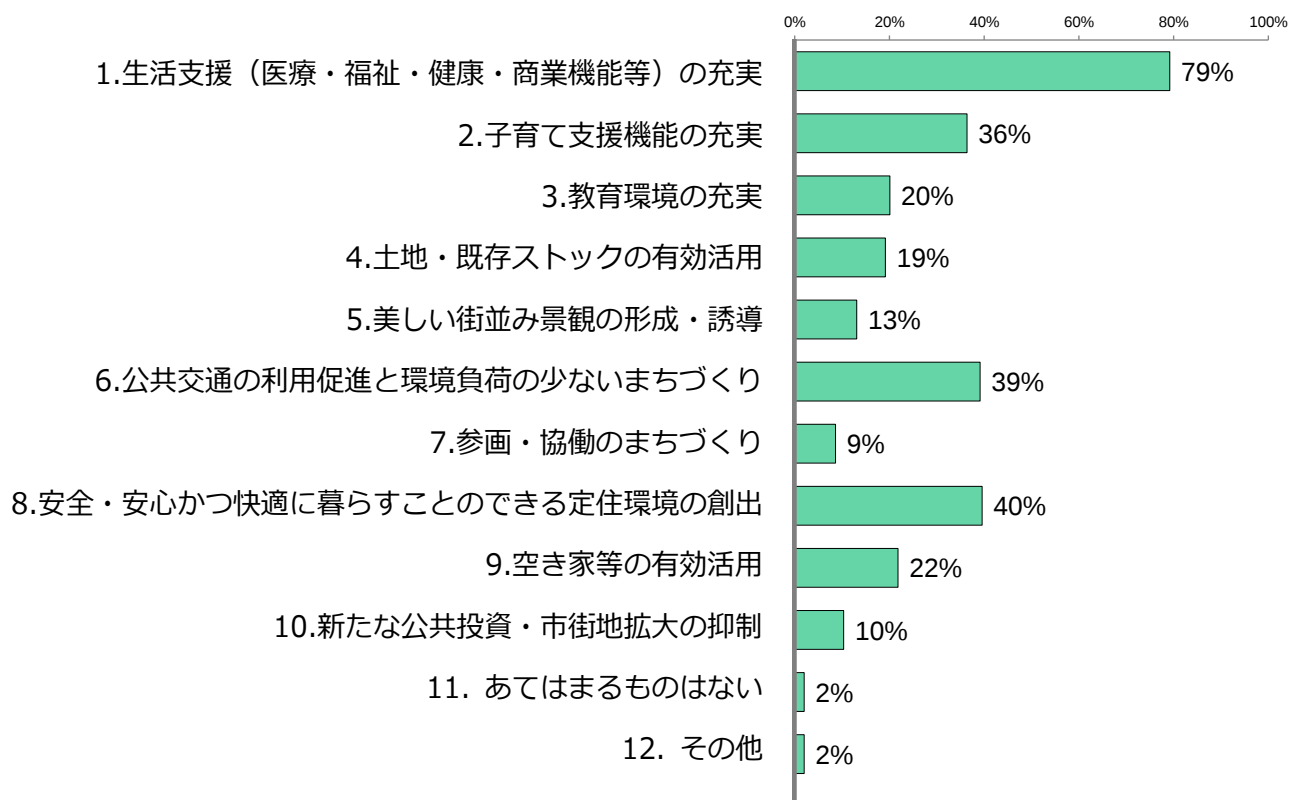


図 3-8 多核連携型コンパクト・エコシティの推進において力を入れるべき施策

- ☞ 多核連携型コンパクト・エコシティの推進において力を入れるべき施策としては、「生活支援（医療・福祉・健康・商業機能等）の充実（79%）」とする回答が最も多く、回答者のほとんどが選択しています。
- ☞ 次いで、「定住環境の創出（40%）」、「公共交通の利用促進と環境負荷の少ないまちづくり（39%）」、「子育て支援機能の充実（36%）」の順となっています。

3.3 今後の住み替えに対する意向

3.3.1 今後 10 年間の住み替え意向

問 5-1 今後およそ 10 年間のあなたのお住まいについて、どのようにお考えですか。

(当てはまるものを 1 つだけ選び、番号に○)

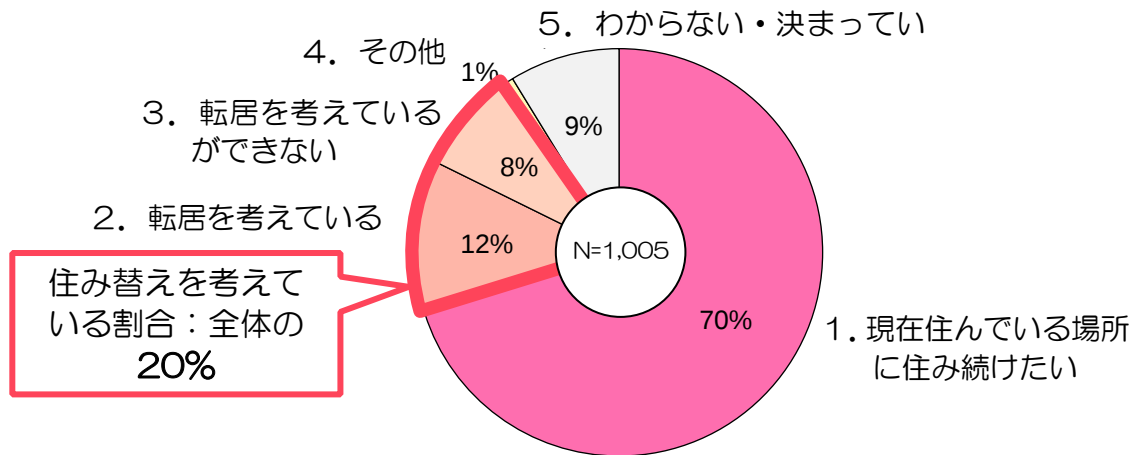


図 3-9 今後 10 年間の住み替え意向

- 今後 10 年間の住み替え意向については、全体の 70%が「現在住んでいる場所に住み続けたい」と回答しています。
- 「転居を考えている (12%)」と「転居を考えているができない (8%)」を合計すると、全体の 20%が住み替えを考えています。

3.3.2 想定している転居先

問 5-2 問 5-1 で 2 と回答された方におうかがいします。

想定している転居先は次のどれですか (当てはまるものを 1 つだけ選び、番号に○)

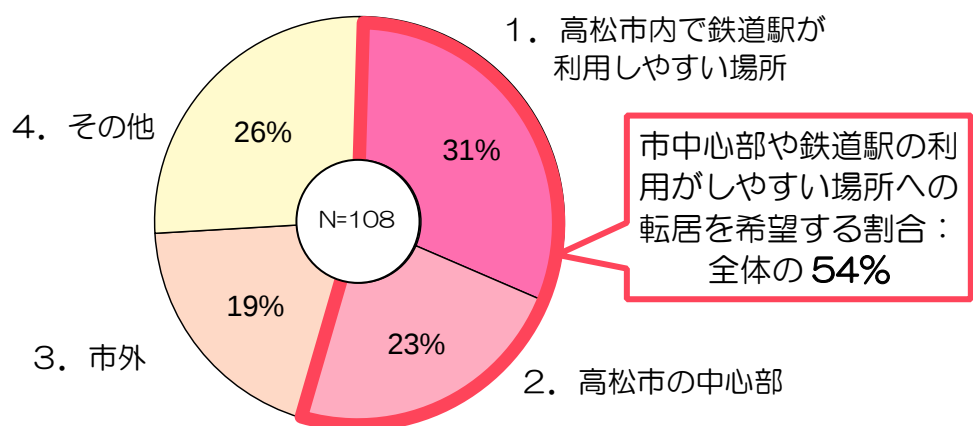


図 3-10 想定している転居先

- 住み替え意向のある回答者が想定している転居先としては、「高松市内で鉄道駅が利用しやすい場所 (31%)」、「高松市の中心部 (23%)」が、合わせて 54%と半数以上となっており、中心部や鉄道駅の利用がしやすい場所が重要視されていることが分かります。
- 具体記載があった中では、多い順で駅名は仏生山(5)三条(3)太田・栗林(2)、町名は番町、丸亀町の中心部(3)、栗林・今里・林・勅使など約 20 の町(2)を挙げる回答がありました。

3.3.3 転居理由

問 5-3 問 5-1 で 2 と回答された方におうかがいします。

転居を考えている理由は次のどれですか。(当てはまるものを全て選び、番号に○)

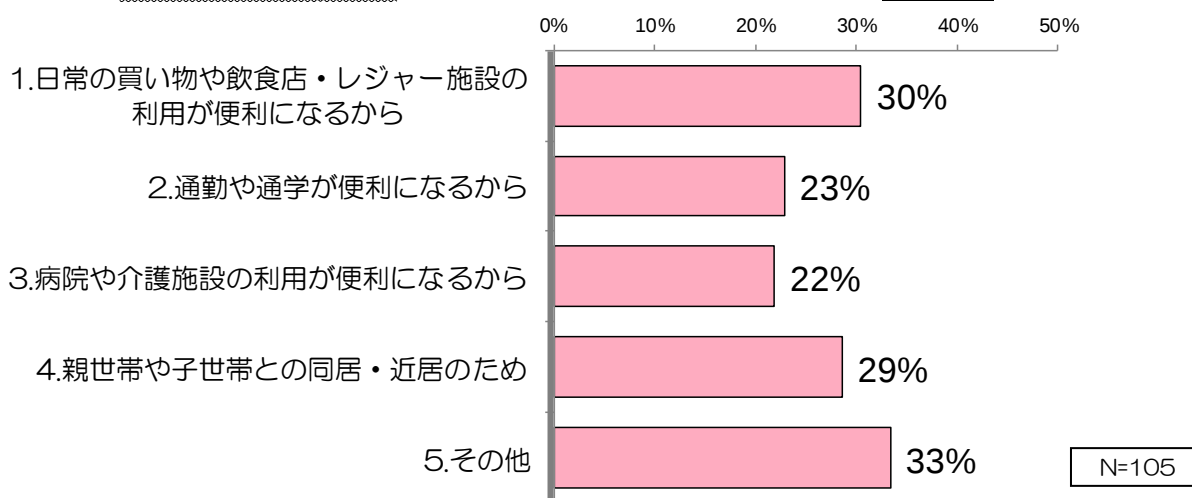


図 3-11 転居理由

☞ 転居理由の選択率は、いずれの選択肢もほぼ同程度であり、その中では「日常の買い物や飲食店・レジャー施設の利用が便利になる（30%）」、「親世帯や子世帯との同居・近居のため（29%）」の割合が高くなっています。その他の主な転居理由としては、「通勤の予定がある(8)」、「住宅購入を予定している(7)」でした。

3.3.4 転居先の住居

問 5-4 問 5-1 で 2 と回答された方におうかがいします。

転居する場合の転居先の住宅について、どのようにお考えですか。

(当てはまるものを1つだけ選び、番号に○)

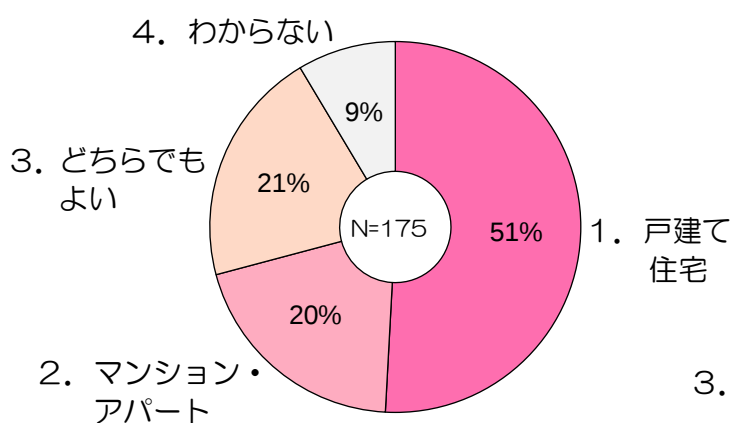


図 3-12 転居先の住居(住宅の建て方)

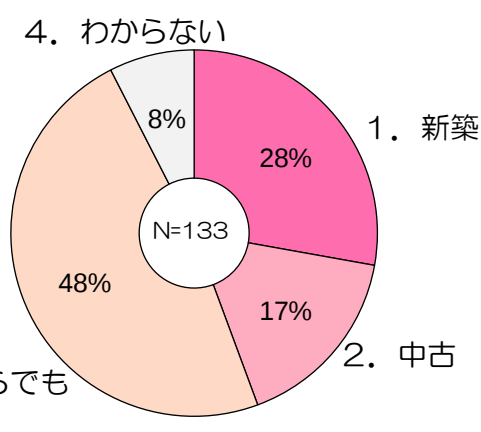


図 3-13 転居先の住居(住宅の状況)

☞ 住宅の建て方では、「戸建て住宅（51%）」とする回答が全体の半数を占めています。
 ☞ 住宅の状況では「新築」、「中古」について「どちらでもよい（48%）」とする回答が全体の半数を占めています。次いで「新築(28%)」の順となっており、転居に当たり特段のこだわりまではないことが読み取れます。

3.3.5 転居できない理由

問 5-5 問 5-1 で 3 と回答された方におうかがいします。

転居できない理由は以下のどれですか。（当てはまるものを全て選び、番号に○）

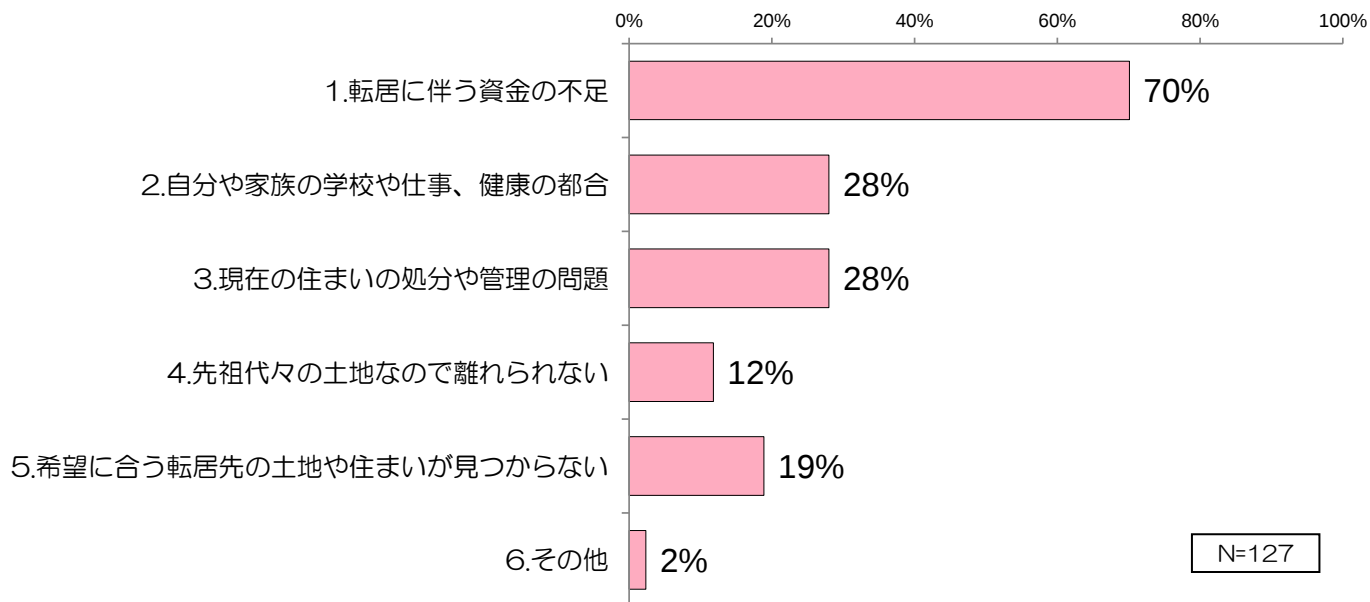


図 3-14 転居できない理由

- ☞ 転居したいができない理由では、「転居に伴う資金の不足」が最も多く、全体の 70% を占めています。
- ☞ 次いで、「自分や家族の学校や仕事、健康の都合（28%）」、「現在の住まいの処分や管理の問題（28%）」となっており、これらの問題を解消する施策が居住誘導に向けた課題とも言えます。

3.3.6 転居時に受けたい支援

問 5-6 全員におうかがいします。あなたが現在住んでいる場所から転居するとした場合、行政からどのような支援があると良いと思いますか。（当てはまるものを全て選び、番号に○）

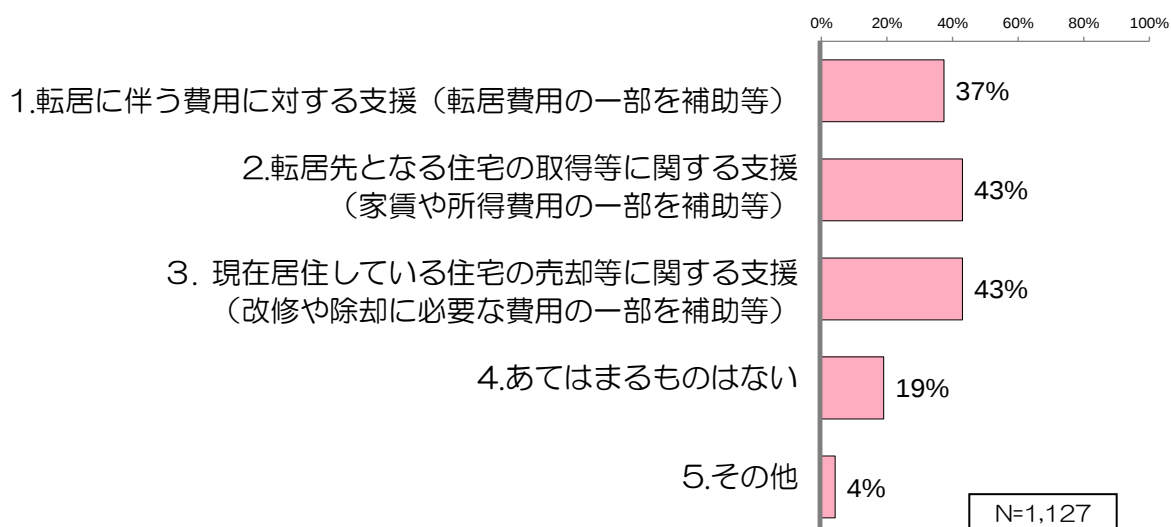


図 3-15 転居時に受けたい支援（全体）

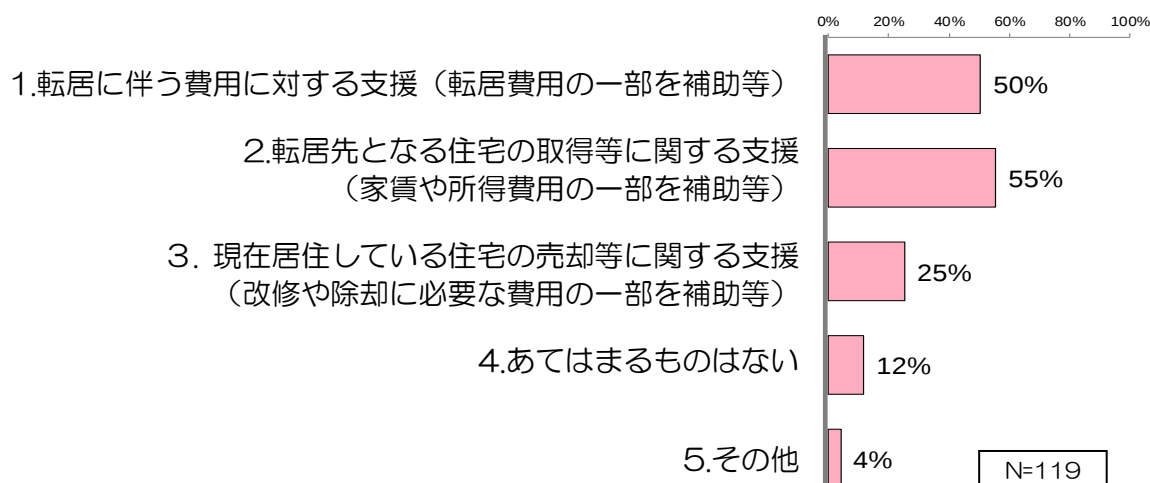


図 3-16 転居時に受けたい支援（転居希望者）

- ➡ 転居時に受けたい支援の選択率は、いずれの選択肢もほぼ同程度で、その中では「転居先となる住宅の取得等に関する支援」、「現在居住している住宅の売却等に関する支援」がそれぞれ 43%を占め多くなっています。
- ➡ 転居希望者に限ってみると、「転居先となる住宅の取得等に関する支援」が 55%、「転居に伴う費用に対する支援」が 50%と多く、「現在居住している住宅の売却等に関する支援（25%）」を大きく上回り、まずは転居や転居先の確保に関する支援が必要とする意向が見て取れます。

3.4 まちづくりについての考えやアイデア

問 7 高松市の目指すコンパクトで持続可能なまちづくりや、今後の人口減少・少子高齢社会におけるまちづくりについて、あなたのお考えやアイデアを自由にお書きください。(記載があった全452件のうち年代・居住地・性別・回答内容のバランスから22件を抜粋、また誤字等を修正)

問 7	属性(性別/年代/居住地/就業形態)
これから高齢になって自動車の運転もできなくなったら徒歩で買い物に行くようになるので、家の近くにスーパーがあると助かると思います。病院も今はあまり行きませんが、これからのことを考えると、近くにあった方がいいと思います。やはりコンパクトな街づくりは良い考えだと思います。	女性/50歳代/牟礼北/派遣社員・アルバイト・パートタイマーなど
高松市は非常にコンパクトで住みやすい反面、車がないと非常に不便だ。だから、電車、バスを使うことがないので子供等は乗り方さえ分からない。	男性/40歳代/太田/会社員・公務員
今の高松市は商業施設等が点在し、宅地も広がりすぎているので、公共交通（主にJR/私鉄）の沿線に絞って町の再開発をしてほしい。都会の真似をするのではなく、その都市の独自性をより際立たせることで観光客を増やし、若者の流出を防ぐことが出来ると思う。高松市中心部の空き物件を再利用して、中心部に活力がある町づくりをしてほしい。	女性/40歳代/亀阜/会社員・公務員
現在、中央病院・市民病院が郊外に移ることになるが、やはり旧市内を中心にコンパクトに集中させるべき。中心になる病院などが分散することで住居等が拡散する。	男性/60歳代/亀阜/会社員・公務員
中心部でなくても、しっかりとしたコミュニティがあり、市内と市外での連携が取れていけばいいと思う。	女性/30歳代/屋島西/家事専業
年をとったら、街中のマンション等で暮らしたいと思っているが、現在住んでいる住宅の処分をどうしたらいいのかと思っている。不動産を所有することが重荷に感じている。先祖代々の土地を処分するのは気が引けるが、放っておいて人に迷惑をかけるわけには行かない。広い宅地などを活用してもらえる方法を行政に考えてもらいたい。もう50歳なので切実な問題です。	女性/50歳代/弦打/会社員・公務員
現在は散歩や自転車で行けるところにスーパー、病院、コミセン等がatteてありますが、人口が減ってくるこの先、今の状態が続くか心配です。「コンパクトエコシティ」大いに賛成です。遠くに行かなくても近くで用事が済む社会を期待しています。	女性/70歳代以上/十河/無職
人口減少のため、コンパクトシティを目指すのはよくわかりますが、都市部に集めた結果、田舎が荒廃したり、農業が衰退し、自給率の低下など別の問題がたくさん出てくると考えられます。高松にもっと人が移住してくるよう、高松の魅力を発信するなどして努めたほうがいいと思います。	女性/40歳代/新番丁/家事専業
まちなかに行政が民間よりも安価な賃貸住宅マンションを建ててはどうか。（セーフティーネットの公営住宅とは別に）これにより中心部人口を増加させることは可能と思うが。民業圧迫という人がいると思うが、広がったインフラの維持費、更新費を考えれば、行政コスト縮減になると思う。	男性/50歳代/屋島/会社員・公務員
町中で全てがそろえるようにお年寄りが住みやすい街にするためコンパクトにするのは良いと思います。	女性/30歳代/高松第一/会社員・公務員
高松市内を特徴のある（福祉、教育、スポーツ、体力増進、商業小売、医療等）小さな町の集合体にし、活性化を図る。個々の小さな町を公共交通機関で結び往來する。	男性/60歳代/鶴尾/会社員・公務員

コンパクトな街づくりには共感できるが、周辺地域がすたれていくのは残念でならない。それぞれのまちの特性は活かしながら、互いに補完し合えるような街づくりにならないだろうか。	男性/50歳代/高松第一/会社員・公務員
これからは子供が住みやすい街づくりをしてほしい。三木町など、子供に色々な支援があると聞きます。高松も考えて欲しい。保育料などパートでは結構きつい。第三子が無料というだけでなく、第二子からも援助があると助かります。	女性/30歳代/多肥/家事専業
郊外に人口が流出するのを防ぐため、市内に近い場所に宅地を開発したり、住居を取得できやすいような支援があると良いと思う。人口に対して高松市の規模（面積）が広すぎると思う。	男性/30歳代/牟礼/会社員・公務員
高松市の中心地は全国でも唯一県庁と港が近距離にあり、素晴らしいところだと思っています。しかし中心地は空き地が目立ち、そこにマンションが次々と建ち近隣住民の生活環境はおかされています。旧市内の開発は公園緑地、住宅（高層マンション）を計画的に考え古い住民、新しい住民が住みやすい高松であるようなコンパクトな街づくりを考えていって欲しい。	男性/70歳代以上/中央/会社員・公務員
町中、商店街などの空き店舗、空ビルなどを老人用住居、医療、福祉施設にしたり、老人向店舗などにして、東京の巣鴨のような場所も一部あっても良いと思う。保育園、児童福祉施設も併用して、老人が気軽にボランティアできれば良いと思う。	女性/50歳代/高松第一/自営
空き家が多く不用心です。治安も悪く街の外観もイメージ悪くなる。公園等の整備を行ない子供たちが安心、安全で遊べる環境を望みます。女性が安心して職場に気を遣うことなく育児、子育てのできる香川県にしたいです。	女性/60歳代/仏生山/会社員・公務員
コミュニティバスの最終便をもっと遅くまで走らせると中心街での活動が活発になる。又、バス路線をもっと増やす。コンパクトシティは足の充実が無ければなんにも始まらない。	男性/50歳代/林/会社員・公務員
スーパーでの食品などの買い物、病院などへの通院、郵便局や銀行の利用、公共交通の利用を基軸とした拠点となるエリアや人口を集積の推進施策に力を入れるべきだと思います。鉄道や路線バスが減少しないように、できるだけ利用する。高齢者が地域、行事の維持などに参加して活力を支える。高齢者が介護施設等で、介護サービスをできるだけ利用しないように運動、散歩などを通じて体力増強に努力し、高齢社会のまちづくりになれば良いと思います。	男性/70歳代以上/仏生山/無職
大きい店ばかり出来ても、小さい店が閉店するのが目に見えて解ります。コンビニも沢山出来すぎているし、店ばかり作るので無く、交通機関を充実した方が使いやすいと思います。コミュニティバスは香川町や綾川にはあるけれど香南は便が少ないと思います。高齢者にとって、ますます利用（住みにくい）しにくいと思います。	男性/40歳代/香南/会社員・公務員
ずっと住み続けられるような、便利で多様なニーズに応えられる街であれば良いなと思います。拠点（自分の住まい）の周辺に子供～高齢者まで対応できる病院があったり、学校・介護サービス事業所があり、全て徒歩～公共交通で移動可能、大きな病院は中心部といったサービスのすみわけがいろいろな町で行われていると住みたい街の選択肢が拡がり良いと思います。私は様々な街に住みましたが栗林～室新町がとても住みやすく良いと思っています。	女性/30歳代/栗林/会社員・公務員
今回のアンケート調査によって改めて人口が減っていくこと、それに伴っていろいろなことが起こるのだろうと考えさせられました。私は今後高松市内の家を建てたいと考えていますが、公共交通機関の近くがやはりいいのかなとも思ってしまいました。（先々のことを考えると）コンパクトなまちづくりのイメージがもっとと市民全体で考え、共有できるように啓発（ポスターで知らせるなど？）も大切なのではないかなあと思いました。	女性/20歳代/川添/会社員・公務員